

「国語科」における指導の工夫のために

文字の認知には視力が大きく影響しますので、特に弱視児には「読み」、「書き」における指導の工夫が必要です。そこで、言語能力を育成する中核的な役割を担う国語科における「読みの指導」と「書きの指導」について紹介します。

「読みの指導」における工夫



一字一字の拾い読みになり、文章の意味をつかむことが難しい子供にはどのような指導の工夫が考えられますか？

例えば、段落ごとに簡単にまとめながら読み進めたり、新出漢字やキーワードをあらかじめ練習してから読んだりするなどの工夫が考えられます。



文章を読む場合、文字の横線や縦線の本数を細かく分析して読むわけではなく、写真のように知っている漢字であれば、文字全体の形を認識することによって、はっきり見えていなくても読むことができます。

ぼんやりとしか見えなくても、前後の文字や文字の輪郭から予測を働かせて読むことができるようになると、読む速度が向上し、文章の内容の理解にもつながります。



写真 「物語の構成」と書かれた教科書を弱視児が見たイメージ

この言葉は読めますか？

「書きの指導」における工夫



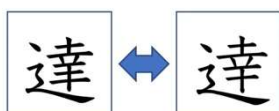
漢字の書き間違いが多い子供にはどのような指導の工夫が考えられますか？

指導する際に書き間違いが多いポイントを伝えるようにし、書いた文字が正しいか、こまめに確認するなどの工夫が考えられます。

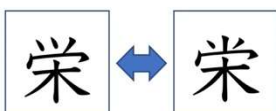


弱視児にとって漢字を一つ一つ丁寧に学習していくことは大変なことです。一点一画が見えにくいために書き誤ってしまったり、曖昧なまま覚えてしまったりしています。

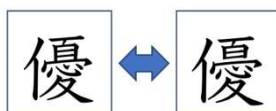
漢字の指導については、書き誤りの傾向を整理して指導に生かすことが大切です。「点画の過不足」、「似た部品との見誤り」、「点画のつながりの誤り」、「線の方角の誤り」など、どのような間違いが多いか確認するとともに、弱視児が書いたものをこまめに確認することが大切です。



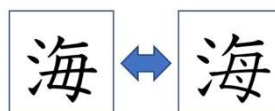
点画の過不足の例



似た部品との見誤りの例



点画のつながりの誤りの例



線の方角の誤りの例

チェックリスト

「読み」、「書き」の実態を把握しましょう。

- ☐ 見えにくくても、文字の形などから予測して読めるようにしましょう。
 - ➡ 新出漢字は、見やすい大きさを提示し、正しい形を理解できるようにしましょう。
 - ➡ 新出漢字やキーワードをあらかじめ練習してから読むようにしましょう。
- ☐ どのような書き誤りが多いか、確認しましょう。
 - ➡ 書き誤りの傾向を整理して、間違いやすいポイントを中心に確認しましょう。
 - ➡ 書いたものをこまめに確認しましょう。

「弱視の児童生徒への指導方法等の在り方」について研修ができます。

北海道立特別支援教育センター 電話 011-612-6211

